

事例Ⅲ

自己表現力を高めるための段階的指導の工夫 ーコミュニケーション能力を高めるための英語Ⅱの指導法ー

1 課題設定の理由

現行の学習指導要領における英語Ⅱの目標は次のとおりである。

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

しかし、これまでの英語Ⅱの指導では、訳読や文法説明に偏りがちであり、生徒が英語を発話する機会や、生徒のコミュニケーション力を育む言語活動を行う機会が少ない傾向にあった。そのため、英語Ⅱの授業は、すなわち和訳の授業であるにとらえる生徒も多いのではないかとの懸念がある。

平成25年度より実施される新学習指導要領では、新しく「コミュニケーション英語Ⅱ」という科目が設けられる。その目標は次のように示されている。

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

ポイントは、的確に理解し適切に伝える能力と、英語を通じてコミュニケーション能力を伸ばしていくことである。内容としては、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることができるように具体的な言語の使用場面を設定して、次のア～エのような言語活動を英語で行うとしている。

- ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。
- イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。
- ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。
- エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

また、「未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることを指導するように配慮すること」とも明記されている。

新学習指導要領では、授業が英語でのコミュニケーションの場であると考え、授業を英語で行うことが基本と明記されている。しかし、現状を考えると、これらの言語活動を英語で行っていくには、まずはこれまで以上に授業の中で英語を聞いたり話したり書いたりする機会を段階的に増やしていくことが重要である。そして、英語で得た情報を自分の中で整理、理解し、それに基づいた自分の考えを英語で伝えることに、生徒が徐々に慣れていけるような段階的指導ができないか考えた。抵抗なく英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを目指し、この研究に取り組んだ。

2 生徒の実態及び仮説の設定

(1) 事前アンケート

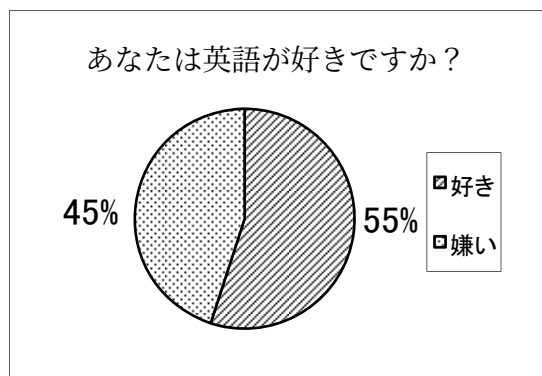
5月下旬に、英語学習に対する意識を調査するために、アンケートを実施した。今回調査対象とした生徒は「人文・国際コース」に属しており、外国語の科目を3年次で9単位履修している。英語Ⅱは2年次から引き続きの履修であり、3年次では3単位の履修となる。

<実施したアンケート> 対象：3年人文国際コース 2クラス36名

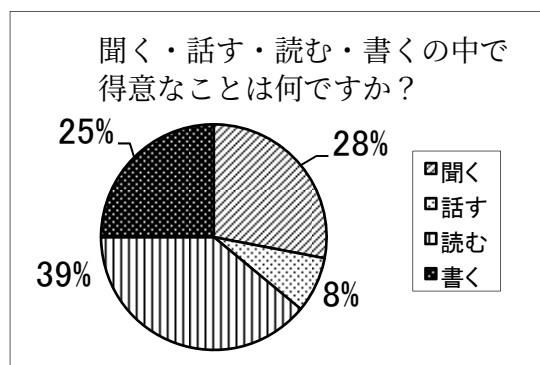
- 問1 あなたは英語が好きですか？ はい ・ いいえ
- 問2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか？
- 問3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか？
- 問4 「聞く」「話す」「読む」「書く」に関して、英語でどのようなことができるようになりますか？
- 問5 英語は必要だと思いますか？ 思う ・ 思わない

<アンケート集計結果>

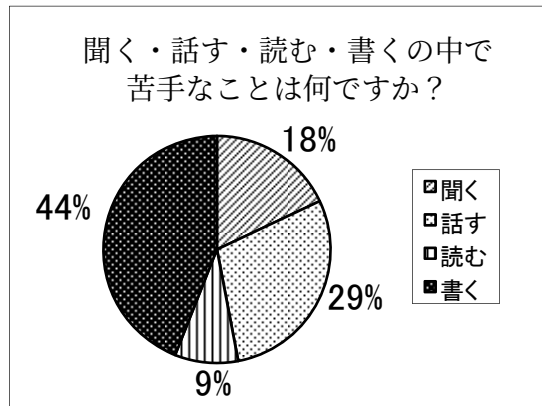
問1



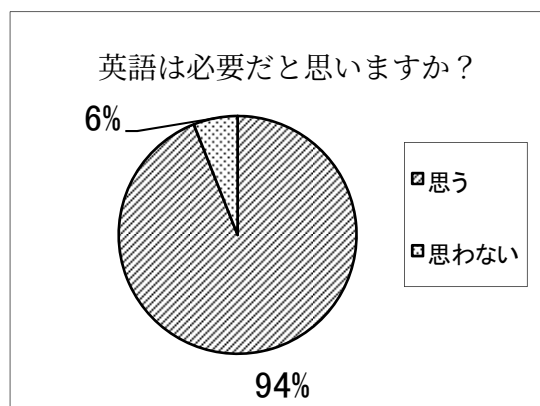
問2



問3



問4



問4（多いものを抜粋）

「聞く」 ことに関して

相手の言いたいことがわかる／外国人が話していることがわかる

「話す」 ことに関して

外国人と会話したい／自分の言いたいことを相手に伝えたい

「読む」 ことに関して

分からない語があっても内容を把握できる／スラスラ読める／CDみたいにきれいな発音で読める

「書く」 ことに関して

スペリングミスや文法の間違いなしで書ける／手紙が書ける／言いたいことを伝える文が書きたい

アンケートの集計結果から、生徒の半数以上が英語を「好き」だと回答し、「読むこと」を得意としている生徒が多いことが分かる。これは、これまでの授業の中で、和訳することを含めた「読むこと」に関する言語活動が多く、比較的抵抗なく取り組めることが要因の一つだと考えられる。一方、大半の生徒が「書くこと」を苦手と感じ、次いで「話すこと」とアウトプットに対する苦手意識を強くもっていることがわかる。しかし、問4では「話すこと」「書くこと」ことについて、「自分の言いたいことを相手に伝えられるようになりたい」と多数の生徒が回答している。このことから、生徒は自分のことを英語で表現したい気持ちをもってはいるが、英語に対する苦手意識があったり、自信がなかったりして、積極的に自己表現活動に取り組めないのではないかと考えられる。

(2) 事前アンケートに基づく仮説

アンケート結果から、以下の仮説を立てた。

仮説1 教員が授業中になるべく英語を多く発話することで、英語に触れる機会を増やし、教員と生徒のコミュニケーションを英語で図っていけば、英語を通したコミュニケーションへの興味・関心を高めることができる。

仮説2 苦手意識の低い「読む」「聞く」ことを中心とした言語活動を、身近な話題をテーマにした「書く」活動や「話す」活動につなげていくことで、英語に対する抵抗をあまり感じずに、自己表現活動へとつなげることができる。

仮説3 ペア → グループ → クラスルームと、コミュニケーションの対象を広げることで、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を段階的に身に付けることができる。

(3) 到達目標の設定

これまでの英語Ⅱの授業の指導手順は次のとおりであった。

- a) 新出語彙・重要語句の意味を辞書で調べる。
- b) 本文CDを聞き、音読をする。
- c) ワークシート（資料1）を配布し内容理解の確認を行う。
- d) 文和訳を穴埋め形式で行う。
- e) 音読をする。
- f) 文法事項を説明し、演習をする。

これまでの指導では、全て日本語で解説・内容理解を行っており、英語を「読む」「聞く」活動はあったが、「話す」「書く」活動がほとんどなかった。

<資料 1>

Lesson 7 Horie Ken'ichi ②
堀江さんの日記の一部を見ましょう。

October 27, 2004. Cloudy.

There was a small ^嵐storm last night. A ^{北東の}northeasterly wind ^吹blew through the night at about 20 meters ^毎per ^秒second.

November 9, 2004. Fine weather.

Tonight, ^{北極星}the Pole Star fell near the ^{地平線}horizon. It will soon be ^{視野}out of ^{視野}sight. It seems to be saying, "Goodbye."

May 31, 2005. Fine, sometimes cloudy weather.

I talked with some 6th graders in Kobe on the ^{衛星の}satellite phone. We talked about ^{環境の}environmental problems and ^{災害}disasters and had a good time.

June 4, 2005. Fine weather.

As I ^{近づく}approach Japan, I find more ^{浮かぶ}floating objects, such as PET bottles, in the sea.

During the ^{航海}voyage he said to his friend on the phone, "I had a dream ^{最近}recently about a new yacht for my next voyage."

Horie Ken'ichi is a real adventurer.

まとめてみよう いつ・何があったのかまとめてみましょう

日付	天気	できごと
2004.10.27	くもり	小さな嵐があった。北東の風が一晩中秒速20メートルだった。
2004.11.9	はれ	水平線近くに北極星が落ちた。すぐに視野から消えた。
2005.5.3	はれ時々くもり	神戸の6年生と電話で、環境や災害について話した。
2005.6.4	はれ	日本に近づくにつれ、ペットボトルなどがたくさん浮かんでくるのを見つけた。

☆ 堀江さんが友だちに語った夢とは？
海の航海（新しいヨットで）について

☆ 波線部を日本語にしてみよう
堀江さんは、本物の冒険家だ。

普段の授業からも、「英語は好きだけれど苦手」という生徒が多く、英語に対する興味・関心はあるものの、科目としての英語を学習することには苦手意識が強いことは容易に理解できる。辞書ひきや問題演習などの作業的活動には黙々と取り組むが、授業中の発言は少なく、表現活動には非常に消極的である。今回の研究では、英語でのインプットを十分にするために、まずは授業を英語で行うこととした。まず、教師の英語の発話を、次に生徒同士で英語での対話の機会を増やし、少しずつコミュニケーションを図ることへの意欲を高める。そして、アウトプットの活動を効果的に取り入れ、生徒の自己表現力の伸長につなげていくようにした。段階的に指導することで、英語で自分を表現することへの自信をもたせ、英語を使うことや人とかわかることの楽しさを実感させたいと考えた。

「まずは授業中の英語でのインプットを徐々に増加し、情報や考えを整理してアウトプットさせる活動につなげる」ことを到達目標とし、月ごとの到達目標を設定して検証することにした。

3 本研究の流れ

本研究は以下の流れで実施した。

5月下旬	事前アンケートを実施する。
	↓
6月	Lesson 5 の授業を実施する。
	授業中に英語でのインプットの機会を増やす工夫をする。
	↓
7・8月	Lesson11の授業を実施する。
	教科書の内容に基づいて、自己表現活動を取り入れる。
	授業中、教師と生徒が英語でインタラクションを取るようになる。
	↓
9月	Lesson 6 の授業を実施する。

	教科書の内容を少し発展させた自己表現活動を行う。 生徒同士でのインタラクションがとれるような活動をする。
	↓
10月	Lesson 9 の授業を実施する。 教科書の情報を整理し、自分の考えをまとめ、それを伝える活動 (アウトプットを意識した活動) をする。 生徒同士でコミュニケーションが図れるようにする。
	↓
11月	事後アンケートを実施し、研究の考察をする。

4 実践内容

(1) 6月 使用テキスト ENGLISH NOW II Lesson5 *Mottainai* (開隆堂)

到達目標

- ① 英語を聞いたり読んだりして、題材についての基本知識を得ることができる。
- ② 英問英答をしたり絵を用いたりして、教科書の内容を理解することができる。
- ③ 教科書の内容について、自分の体験を英語で書くことができる。

指導目標

- ① 写真を提示したり、簡単なQ&Aをしたりしながら内容について英語で説明し、授業の概略をつかめるようにする。
- ② 英問英答をしたり絵を活用したりして、内容理解を図る。焦点をしばり、答えを本文中から抜き出せるような設問になるように工夫する。
- ③ 単元のテーマについての体験談を英語で書かせる。その際、例文とそれについてのイラストを提示し、積極的に活動に取り組めるようにする。

(ア) 活動事例 ① 英語で導入 (Oral Introduction) をする

Wangari Maathai さんについて、写真を見せ、英語で説明をして理解させる。その際、本文理解の助けとなるよう、彼女の出身地や「もったいない」という言葉についても簡単な英語で補足説明をする。

—指導手順と留意点—

- a) プロジェクターを用いて写真(資料2)を提示し、その人物が誰であるか質問する。マータイさんであることを確認させる。
- b) マータイさんについてのQ&Aを行い、彼女の出身地・職業を理解させる。答え(Kenya / Professor)についても簡単な英語で説明し、本文理解の助けとなるようにする。

Oral Introductionは初めてのことなので、質問した後に英文を提示し、文字で確認させた。

- c) 「もったいない」という言葉がマータイさんによって世界に広められたことを、英語によるQ&Aで確認する。

<資料 2>

Q.1 Do you know her? 	Q.2 Where is she from? a.Kenya b.the United States c.India
Q.3 What is her job? a.Farmer b.Doctor c.Professor	Q.4 What is her favorite Japanese word? a.Arigitou b.Sumimasen c.Mottainai

(イ) 活動事例② 英問英答をすることで内容を理解する

本文の内容を理解させるために、英語で書かれた Comprehension Question に答えさせる。

—指導手順と留意点—

- ワークシート（資料 3）に書かれた Comprehension Questions に英語で答えさせる。答えを本文の中から抜き出せる質問を設定し、英語での質問に英語で答えることができたという達成感を得させる。
- 内容理解の確認のため、簡単な Summary 埋め形式で完成さる。

Comprehension Question

- What did Wangari Maathai learn in Kyoto in 2005?
She learned a Japanese word, mottainai.
- Why did she like the word?
Because she knew that it was not good to waste things.
- What did she do to spread the word around the world?
Then at a meeting in the United Nations she talked about this Japanese word and introduced the idea of mottainai.

Summary

In 2005, she met a Japanese word (① Mottainai) in Kyoto. She liked the word very much, and talked about the word and the (② idea) of Mottainai at a (③ meeting) in the UN.

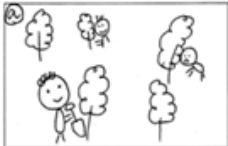
(ウ) 活動事例③ 絵を用いて内容を確認する

本文の内容理解を促す。

—指導手順と留意点—

- 各自で本文を読む。和訳はしない。
- ワークシート（資料 4）を配布する。本文の内容を表す絵を 5 枚提示する。それを本文の流れに沿って並べ換えさせる。絵が内容理解の助けとなるように、簡単な英語を補足として加える。周りと相談してもよいことにする。

<資料 4>

本文の流れどおりに①～④を並べてみよう！
() → () → () → ()

(エ) 活動事例④ 自分の体験を英語で書く

レッスンのまとめとして、自分が「もったいない」と感じることを英語で書かせた。教科書のテーマは「リサイクル運動」であるが、それに限定せず身近な体験談を書かせることで題材が増え、自由な発想ができ積極的に活動できると考えた。また、例文もリサイクルとは関係ないものを提示した。

－指導手順と留意点－

- ワークシート（資料5）に書かれた例文について説明する。生徒が共感できるような内容にし、「私だったら」とイメージできるようにする。
- 自分の「もったいない体験」を英語で書かせた。生徒が書く意欲を失わないように、パラグラフライティングではなく、2～3文でよいことにする。
- 書いた英文を隣の生徒に見せ、それについて共感できるか、意見交換をさせる。

<資料5>

Lesson 5 Mottainai ①

Your "Mottainai" Episode

Example !!!

I returned a rental DVD two days later after the due date.

I bought clothes. But I don't wear yet.

What does "Mottainai" mean?

I feel "Mottainai" when I waste _____.

a) time
b) money
c) food
d) energy
e) other ()

もったいない

① 神仏・貴人などに対して不都合である。
② 過分のことでおそれ多い。
③ そのものの値打ちが生かされずムダにするのがおしい。

広辞苑より

Class 3- () Name

(オ) 6月の研究内容の考察

少しずつ活動の難易度を上げながら、4種類の活動を実施した。授業で教師が英語を発話する回数も日ごとに増やしていったが、生徒は思ったほど負担に感じていないようであった。日本語を全く使わないわけではなく、生徒の状況を見ながら英語と日本語をバランスよく授業に取り入れるようにしたためではないかと思う。今後は教師の発話する英語をさらに増やしていくことと、生徒の発話量を増やしていくことが課題である。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標①：写真やパワーポイントなどの視聴覚教材を使うことで英語を用いてスムーズに導入することができた。

到達目標②：教科書の本文を読むことには慣れているため、比較的理解しやすく、設問に対する正答率も高かった。英語で答えることについては戸惑っている生徒もいたが、本文から答えを抜き出せるようにすることで、自信をもって答えを書くことができたようになった。

到達目標③：モデルセンテンスを提示したり、書く文を2、3文でよいとしたりしたため、普段はなかなか自発的に自由英作文に取り組めない生徒も積極的に活動に取り組んでいた。時制や人称等の間違いは多かったが、英語で書くということにあまり抵抗を感じず、自分の体験を英語で表現しようとする前向きな姿勢が見られた。また、生徒同士で互いの英文を読み、意見交換することで、自分が伝えたいことを理解してもらえる喜びを感じることができたようである。

(2) 7・8月 使用テキスト ENGLISH NOW II Lesson 11 *Free the Children* (開隆堂)

(ア) 6月の考察に基づく工夫改善

生徒は身近なテーマであれば自己表現活動を英語で行うことに抵抗を感じない。そのため、生徒の自由な発想を表現する活動を授業に取り入れることにした。さらに、教師も生徒も発話量を増やすために、英語を用いて新出単語を確認する指導を工夫することにした。しかし、意味を知らない語をさらに英語で理解することは困難であると考え、まずは日本語と英語を用いて意味を理解させ

る活動を行うようにした。

到達目標

- ① グループの中で自分の考えを英語で述べることができる。
- ② 英語での説明を聞いて、題材についての知識・情報を得ることができる。
- ③ 教科書の内容について、自分の意見を英語で書くことができる。

指導目標

- ① グループでレッスンのテーマについて話し合いをさせ、意見を発表させる。活動を通し、自分の意見を英語で相手に伝えることを経験させる。
- ② 児童労働についてパワーポイントを用いながら英語で説明し、それについて興味・関心をもたせる。
- ③ 主人公の立場になり、自分の意見を英語で書き、内容理解を深めさせる。

(イ) 活動事例 ⑤ レッソンの導入として英語でグループディスカッションを行う

「児童労働」について学習する前に、「大人と子どもの違い」についてグループで簡単な話し合いをさせた。一人ずつ意見を発表するのではなく、グループの考えを話し合ってまとめさせることで、英語で自分の意見を述べることへの抵抗感を減らし、活発な意見交換ができるようにした。



—指導手順と留意点—

<資料6>

- a) ワークシート（資料6）を用いて、グループで「大人と子どもの違い」について話し合わせる。思いついたことを、文章ではなく、箇条書き（単語だけでもよいとした）にするよう指示し、活発な意見交換を促す。
- b) グループでまとめた意見を、板書させる。他のグループの生徒に理解してもらえるよう、できるだけ分かりやすい英語で表現するように指導する。

Lesson 11 Free the Children ①

INTRODUCTION

What is the difference between Children and Adults?

- Workers or Students
- Get a job or go to college
- Can drink alcohol and smoking or can't drink alcohol and smoking.

Do you know "Child Labor"?

Yes / No

- c) 複数のグループから "worker" "student" という意見が出たことを確認し、児童労働について写真などを使って英語で説明する。

<資料7>

(ウ) 活動事例⑥ 自分の意見を英語で書く

内容理解を深めるため、主人公の立場になって「自分ならこうする」という具体的な意見を書かせる。

—指導手順と留意点—

- a) 本文の内容理解を行う（前時）。
- b) ワークシート（資料7）を配布し、「もしあ

Think about ...

Q.1 How old was Craig at that time?

→ He was twelve years old

Q.2 What would you do if you were Craig?

[I examine about child labor in detail / Good!!]

Q.3 What did Craig do?

[He made objection organization / He appealed many people.]

あなたがCraigだったらどうするか。」という質問(Q2)に英語で答えさせる。文の長さなどの条件は与えず自由に意見を書かせる。

- c) 数名の生徒に意見を発表させる。他の生徒には発表をよく聞いて、賛成か反対かを考えさせる。
- d) 「Craigは何をしたか」(Q3) を予想させ、英文で書かせる。

(エ) 7・8月の研究内容の考察

英語でコミュニケーションを図るためには、まずどれだけ英語を発話できるかということがポイントになる。指示を英語で出すのはもちろん、生徒との英語でのインタラクションを心がけた。

事前アンケートからも分かるように、生徒は、「話す」ことよりも「書く」ことに苦手意識を感じている。しかし、生徒の現状を考えると、頭の中で文を組み立て、英語でスムーズにやりとりをすることは難しい。一度伝えたい内容を文章にしないと、生徒の不安は大きくなってしまう。英語でコミュニケーションを図るためには、まずは自分の意見を「書く」活動を指導に取り入れることが必要であると考え、少しずつ書く活動を行った。生徒は苦手意識の強い「書く」活動にはやはり消極的になってしまうが、書く内容を工夫したり、ペアワークなどで相談し合えるようにしたりすることで、「書く」ことへの抵抗を少なくする工夫をした。

グループでのディスカッションでは、何とか自分の考えを伝えよう、相手の考えを理解しようとお互いに努力する姿が見られ、相乗効果で活発な話し合いができていた。生徒に感想を聞いたところ、やってみると楽しいという意見が多かった。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標①：英文ではなく単語で意見をまとめさせたことで活発な意見交換ができた。

到達目標②：児童労働について知らない生徒がほとんどであったが、実際の児童労働者の写真や仕事の内容などを紹介したことで、興味・関心が高まり、日本語ではあったが「なぜ子どもが働かなくてはいけないのか」「学校に通えることが幸せだ」などの意見が多く出された。

到達目標③：ワークシートが、初めから意見を求めるのではなく、質問に対する答えを書く形式であったため、抵抗なく英文を書くことができ、多種多様な意見が挙げられた。これまではワークシートに何も書かない生徒が何名かいたが、全生徒が意見を書くことができた。

(3) 9月 使用テキスト ENGLISH NOW II Lesson 6 *GM Foods* (開隆堂)

(ア) 7・8月の考察に基づく工夫改善

生徒は、英語で自分の意見を書くことには徐々に慣れ、あまり抵抗感を感じなくなった。しかし、単語から文章にはなってきたものの、まだ数文しか書くことができない。また、「文を書く」ことに精一杯で、文のつながりや英語としての正確さを意識することまでは到らず、内容としてはまだまだ不十分である。

何度かグループの中で話し合う活動を行い、全員が自分の考えを発言したり、相手の意見を理解しようとしたりするようになり、意欲的に取り組むことができるようになってきた。しかし、「伝えよう」「聞こう」という意識は強いものの、伝える内容は、文章で言うと多くの場合一文程度である。また、聞く側も、聞いたことに対して何か応答するというようなインタラクションはなく、一方通行の情報伝達である。

そこで、教科書の内容理解の際に、意見とその根拠など、プラスアルファの文を加えて自己表現できるような活動を取り入れることにした。また、さらに英語でのインプットを増やすために、語

句や本文の内容理解を「読む」「聞く」活動を継続して行うこととした。内容的には難易度の高いレッスンであるが、図や写真を使った導入や、本文中から答えを抜き出せる形式のComprehension Questionsを工夫し、生徒の内容理解を深めるようにした。

到達目標

- ① 図や写真を用いながら、抽象的な語句や遺伝子組み換えについて英語での説明を聞いて理解することができる。
- ② 本文の内容に関する英語で書かれた質問に答えることで、内容理解を深めることができる。
- ③ テーマについて、本文の表現を参考にしながら自分の意見を英語で書き、発表することができる。

指導目標

- ① 抽象的な語句やテーマを、図や写真、身近な例などを挙げながらできるだけ簡単な英語で言い換えて説明し、理解させる。
- ② 本文の要点となる部分について簡単な英語で質問し、それに答えさせることで、内容理解を図れるようにする。
- ③ 自分の意見（賛成・反対）とその根拠を、本文の表現を参考にして英語で書かせることで、内容理解を深めさせる。
- ④ まとめの活動として、テーマについての意見をグループ内で発表し、それについてさらに話し合うことにより、生徒同士でのインタラクションを図れるようにする。

(イ) 活動事例⑦ 英問英答により内容を理解する

本文の内容を、生徒が理解しやすい英語でパラフレーズする。いくつかの質問をし、それに答えさせながら内容理解を図る。

－指導手順と留意点－

- a) ワークシート（資料8）を配布し、質問に対する答えを本文中から見つけ、抜き出させる。
- b) 答えとなる本文を簡単な英語でパラフレーズし、説明する。具体的な写真を見せ、生徒が理解しやすいようにする。

<資料8>

Lesson 6 GM Foods ①

Look at Q & A on a homepage...



Q.1: How do scientists genetically modify plants?

A.1: All living things have genes. Genes decide the characteristics of plants, animals, and humans. For example, they decide whether we have brown eyes or blue eyes. Scientists can put a new gene into a plant and change its characteristics.

Q.2: Why do they want to do this?

A.2: Scientists believe that they can make plants grow bigger and stronger. Even in poor soil, more vegetables can be grown. They will look better and taste better.

Think about...

◎ What is GM Food?

put a new gene into a plant and change its characteristics
ex) Soybean, potato

◎ What are the merits of GM Food?

grow bigger and stronger
look better and taste better
in poor soil, they can grow

◎ What can the technology be used for?

Even in poor soil, more vegetables can be grown
→ ~~the plant~~
they can make plants bigger and stronger
→ ~~the plant~~ ~~the soil~~ ~~the plant~~ ~~the soil~~

◎ Do you want to eat GM Food? Why?

No, I don't.
Because maybe allergic to GM Food.

3- () Name _____

(ウ) 活動事例⑧ 英語で意見を書いて発表する

遺伝子組み換えのメリットとデメリットについて教科書で学んだあと、自分は遺伝子組み換えに賛成なのか反対なのかを考えさせる。本文で学んだことを基に考えさせ、自分の意見の根拠も明確にさせる。発表することを前提とした活動なので、相手に分かりや語を用いたり、正確な英語で書いたりすることが必要になる。どのように伝えれば相手が理解しやすいかも考えさせる。



－指導手順と留意点－

- a) ワークシート（資料8）の最後に、遺伝子組み換え食品に賛成か反対かを書かせる。
- b) a)の根拠を書かせる。本文をそのまま抜き出しても自由に書いてもよいこととするが、書いたものを見せるのではなく、口頭で自分の意見を相手に理解してもらうことを意識させ、どのように表現すればよいかを考えさせる。
- c) 自分の意見をグループの中で発表させる。的確に伝えるためには、原稿を読むのではなく、アイコンタクトやジェスチャーなど、効果的な伝達手段は何かを考えなければならないことを指導する。
- d) グループの中でそれぞれの意見について話し合う。具体的には、発表された内容について、同意するか・しないか、その理由は何かを述べるように指導する。一方的な情報伝達にならないように、必ず発表内容について話し合いをするようにさせる。

発表内容が理解できなかったときは、もう一度発表してもらってもよいとする。ただし、その際は伝える側はなぜ伝わらなかったのか、聞く側はなぜ理解できなかったのかをよく考えてから、二度目の発表をするように指導する。

(エ) 9月の研究内容の考察

継続して行っている英語でのOral Introductionや教科書の内容に関する英問英答に関しては、教師が発話する英語も、ワークシートなどで使用する英語も徐々に難易度を上げたが、慣れてきたこともあり、生徒は十分に理解できているようである。今回のレッスンは遺伝子組み換えに関するもので、生徒にとってはあまり身近に感じられない話題であったが、何とか英語でのアウトプットの活動を取り入れる工夫をした。グループでのディスカッションには慣れてきていたので、学んだことに基づいて情報や意見を整理して、自分の意見を述べ合う活動を行った。多少時間はかかったものの、生徒たちは自分の意見を伝える適切な表現や効果的な伝達方法などを考え、積極的に活動に参加していた。

しかし、以前からの課題である、発話する英語の正確さに関しては、生徒は意識するようにはなってきたもののまだまだ不十分である。また、「書く」活動をしてから「話す」活動を行うと、どうしてもスクリプトに頼ってしまい、「読む」活動になってしまう。そのため、インタラクションは取れているものの、効果的なコミュニケーション活動としては成立していないと思われる。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標①②：身近な例を挙げたり、実際に遺伝子組み換え食品を提示したりしながら、遺伝子組み換え食品について説明することで、基本的な知識を英語で理解することができた。また、Comprehension Questionの答えを本文から抜き出させ、それをさらに簡単な英語で説明することで、本文の理解を深めることができたようである。

到達目標③④：約半数の生徒が本文から自分の意見の根拠となるものを抜き出していたが、本文にない語句を調べたり、インターネットなどでさらに詳しく調べたりして、自分の意見を発表する生徒もいた。発表については、自分が書いた意見を読み上げる生徒が多く、コミュニケーション活動としてはまだ十分とは言えない部分もあった。

(4) 10月 使用テキスト ENGLISH NOW II Lesson 9 *Lena Maria* (開隆堂)

(ア) 9月考察に基づく工夫改善

前述のように、少しずつではあるが、自ら考え、それを英語で表現する活動に慣れてきたように感じる。しかし、これまでは本文中にヒントがあったり、教師が途中まで誘導したりと、ある程度情報を与えたり、状況を設定したりした中での活動であった。

そこで、何もない状態から自分で構成を考え、文と文とのつながりを意識して英文を書くという活動をさせることにした。さらには、これまでは教師が新出単語や本文を既習の単語で言い換えてきたが、生徒同士で簡単な英語で言い換える活動を取り入れることにした。また、最終的には、スピーチという形で、自分の意見などを相手に伝える活動の機会を与え、「話す」という形の自己表現活動をするようにした。

到達目標

- ① 新出語句・重要語句を日本語ではなく簡単な英語で言い換えることで語句の意味を理解できる。また、簡単な英語で、新出語句の意味を説明することができる。
- ② テーマについて、自分の意見をまとめ、グループやクラスで発表することができる。
- ③ 相手の考えを理解し、自分の考えと照らし合わせて、意見交換ができる。

指導目標

- ① 新出語句などを英語で言い換えたものを読んだり、書いたりさせることで理解を深めさせるとともに、語句等を分かりやすい英語で説明することができるようにする。
- ② スピーチ形式での意見発表で、どのようにして自分の言いたいことを的確に相手に伝えるかを考えさせ、実践させる。
- ③ スピーチを聞き、相手が伝えようとしていることを正確に理解し、それに対する自分の考えを述べるように指導する。

(イ) 活動事例⑨ 英語で新出語句や重要語句の意味を理解する。

—指導手順と留意点—

- a) ワークシート（資料9）を配布し、新出語句などを簡単な英語で言い換えながら教師が本文を説明する。できるだけ生徒が理解できる単語で説明する。生徒には特に新出単語に注意しながら聞くように指示する。
- b) 新出・重要語句と、それらを分かりやすい語で言い換えた文とを組み合わせるように指示する。その際、a)で教師が説明した英文や本文を参考にするよう指示する。
- c) 日本語で意味を確認しないと理解できているか不安だという生徒もいる場合には、マッチングが終了した後、辞書で意味を確認させる。

<資料9>

Words and Phrases

disabled people	behave in some special way
treat	in different way
differently	normal
natural	people who live next to you or near you
society	in the place of ~
neighbors	people who are unable to use a part of their body completely or easily
instead of ~	the group which we live in or the people living in the same group

* I used a pencil instead of a pen.

COMPREHENSION Good / Bad points of Sweden

Good Sweden is a very good country.	Bad Sometimes disabled people are treated differently.
---	--

think about What do you think about Japan?

I think Japan is a bad country because there are a lot of earthquakes, and in addition, there are many crimes. However, Japan has good points. Japan declared that it will not have war and weapons.

<資料10>

Lesson 9 Lena Maria ②

Lena Maria is a singer in Sweden.
 She has bright smile and beautiful voice.
 She has attracted many audiences with them.

Interviewer: How have you been?
 Lena Maria: Very well, thank you. I've been enjoying my life. This year I've given a lot of concerts and I've also recorded a new CD. I've also been enjoying married life!

Interviewer: Do you and your husband share the housework?
 Lena Maria: Yes, of course. My husband often makes the dinner. He's a good cook!

COMPREHENSION

What has Maria been enjoying?
This year she's given a lot of concerts and she's also recorded a new CD.
She's been enjoying her life.

Explain the meaning of the words.

"Share"	Cut a half cake. Put up the half cake for you. Eat the half cake with me.
"housework"	Cook and clean in the room.

(ウ) 活動事例⑩ 語句を英語で言い換えることで、理解を深める。

活動⑨を発展させ、生徒に語句を英語で言い換えさせる。最初は二つのペアで活動させ、あるペアが英語で言い換えたものを別のペアがマッチングをするという活動にした。何度か実施し、生徒が慣れてくるとペアワークにし、一人が英語で言い換え、もう一人の生徒がそれをマッチングする活動に発展させた。

一指導手順と留意点一

- ワークシート（資料10）を配布し、新出語句・重要語句の意味を辞書で調べる。
- 調べた語句を、その意味を分かりやすい英語で言い換える。説明できない時には、その語句の例を挙げたり、文章でなく単語のみ説明したりと、ペアで工夫するように指示する。伝わりやすい英語で表現することが重要であることを指導する。
- ワークシートを交換し、新出語句と言い換えた英語をマッチングをさせる。その際、英語の間違いに気づいたら訂正し合うように指示する。また、自分が英語で言い換えた文を読み、相手にどの語句の説明であるかを答えてもらうなど、コミュニケーションを図りながら確認するという方法も取り入れる。

(エ) 活動事例⑪ 自分の意見を英語で発表する

本文では、“What do you think about Sweden?”という問いに対し、Lena Mariaが自国スウェーデンに対する自分の意見を述べている。そこで、生徒に対して“What do you think about Japan?”という問いかけをする。自国日本に対する自分の意見をまとめ、スピーチとして発表させることにした。



一指導手順と留意点

- ワークシート（資料11）を配布し、日本について自分の意見をまとめさせる。本文の表現を参考にしてもよいとする。7文以上で書くように指示する。生徒が英文を書きやすいように、教師自身の考えをモデルとして提示する。また、文のつながりなどを意識し、正確な英文が書けるように、教師が机間指導をして、生徒のサポートをする。
- 生徒が自信をもって発表できるよう、スピーチの原稿となる英作文は提出させ、添削して返却する。返却後、授業中に原稿を読む練習をする時間を設け、発音等についてアドバイスをする。発表は原稿を見ないで行わせる。その際は絵などを用いてもよいとする。
- 4～5人のグループになり、意見を発表させる。全員が発表した後、自分の意見と周囲の意見を比較しながら、意見交換をさせる。疑問に思ったこと、賛成できること、賛成できないことなどについて話し合うように指導する。なるべくグループとしての意見をまとめさせる。
- グループで代表者を選び、クラスで発表する。聞き手は、発表の内容についてコメントを書き、発表者にフィードバックするように指導する。

<資料11>

Lesson 9 Lena Maria

What do you think about Japan?

My Opinion

I think that Japan is a very good country, because every child can go to school. In Japan, children can learn many things at school. In some countries, children can't go to school, even though they want to. This is because they are poor and they must work for their family. But, some Japanese students don't study hard, don't go to school, or think about only themselves. It is necessary to understand the importance of studying at school. I want students to study many things and make good friends at school. As a teacher, I work hard so that students can enjoy their school life.

Try to write more than 7 sentences! Do your best!

POINT
日本をどう思うか。その理由は何か。日本の現状で問題点はないか。それに対してどう思うか。どのような解決策が考えられるか。自分はこれから何ができるか。などを考えて書いてみましょう。

I think Japan is a good country. ^aBecause people can live ^{happily} happy. There are ^{a lot of} many food. And we have houses and clothes. But some people don't think ^{happy} people. ^{when} I see ^{about} other ^{foreigner} foreigners, ^{asked} the way, ^{the} man ^{didn't} answer. I think we should ^{be} kind ^{to} people. I ^{大に} treasure ^{my} friends, my family and people ^{around} me. When I saw this scene, I felt unhappy.

(オ) 10月の研究内容の考察

大きく分けて、二種類の活動を行った。一つ目は、新出単語を既習の英語で言い換える活動である。二つ目は、この研究のまとめともいえるが、あるテーマに対して自分の意見を整理し、それを英語で的確に伝える活動である。どちらも、生徒同士でコミュニケーションが図れるように、相手が伝えたい情報を理解し、それに対して自分も意見を述べることとした。授業中に自分の意見を英語で伝える方法として、書いて伝えること、書いたものを読んで伝えること、自分のことを話して伝えること、の三つがあると考えているが、最初の二つの方法はこれまでも何度か行っているため、今回行ったスピーチという形にも、自発的に取り組んでいた。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標①：新出語彙の導入において、「聞く」「読む」「書く」活動を行うことができた。自分が知っている単語で新出単語を説明することは、これまで教師が行ってきただけのため、生徒にとっては取り組みやすい活動であった。それぞれが工夫して英文を書いていた。また、クイズ形式で口頭での答え合わせをしたが、非常に意欲的に取り組んでおり、語の意味の確認と定着を図ることができた。

到達目標②：グループでの発表の際、相手の意見に対して即座に自分の意見を述べることに抵抗を感じている生徒もいた。AとBとの対話において、A→Bで終わりではなく、たとえ短い文章であっても、A→B→A→Bと会話が続いていくことが重要であるということは認識できているようで、発表者に対して何とか自分の意見を返そうと努力する姿勢が見られた。短い文であったり、単語であったりしたが、英語でコミュ

ニケーションを図ろうとする態度が見られた。英語で相手に何かを伝えること、相手の伝えたいことを理解すること、を楽しんでいる様子が見えた。

5 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

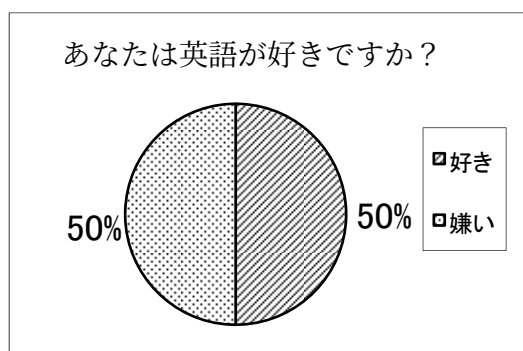
これまでの活動を振り返るために、事前アンケートと同じ内容でアンケートを行った。

＜実施したアンケート＞ 対象：第3学年人文国際コース 2クラス36名

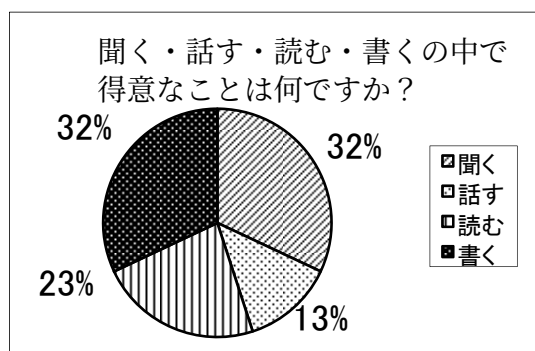
- 問1 あなたは英語が好きですか？ はい ・ いいえ
- 問2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか？
- 問3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか？
- 問4 「聞く」「話す」「読む」「書く」に関して、英語でどのようなことができるようになりますか？
- 問5 英語は必要だと思いますか？ 思う ・ 思わない

＜アンケート集計結果＞

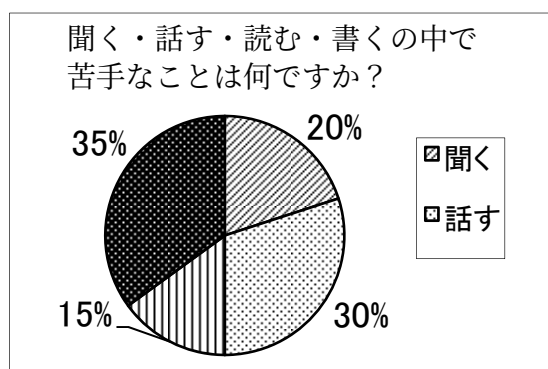
問1



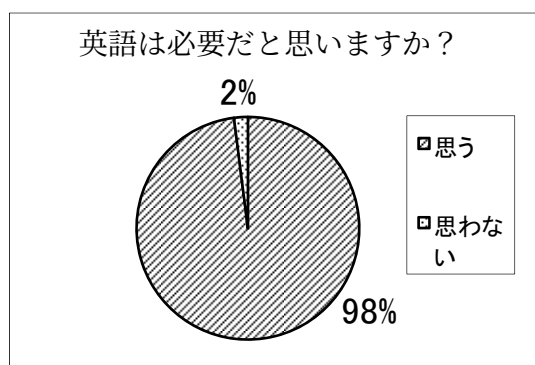
問2



問3



問5



問4 (多いものを抜粋)

「聞く」に関して

先生の説明が聞き取れる／知らない単語も日本語がなくても言い換えた英語を聞けば意味が分かる

「話す」に関して

とりあえず話してみようと思えるようになった／発表は苦手だけど嫌ではない
グループで話し合うのは楽しい／自分が言いたいことを英語で言えると嬉しい

「読む」に関して

辞書をひかなくても大体の内容が把握できるようになった

「書く」に関して

単語でなら言いたいことを書ける／少しずつ長い文章で書けるようになった

アンケートの集計結果から、これまでの活動を通して、英語で自己表現活動を行うことに対する抵抗感は減ってきていると感じる。問2から「聞く」「話す」「書く」ことを得意と感じている生徒が増えていることが分かる。また、問3からは「書くこと」に対する苦手意識をもつ生徒が少なくなったことが分かる。問4から分かることは、特に、「書くこと」に関しては、徐々に英語で書ける内容がレベルアップしたり、文法等にも留意しながら徐々に正確な文が書けるようになってきていると実感したりしている生徒が増えてきている。「話すこと」に関してはまだ苦手意識が強いが、少人数の中であれば単語をつなぎ合わせて何とか自分のことを伝えようとする姿勢も見え始めている。

(2) まとめ

研究当初に設定した仮説1～3については、さまざまな実践を通して概ね立証できたと考える。

今回の研究で最も留意したことは、段階的な指導である。まずは、教師の発話する英語を徐々に増やすなど、英語のインプット量を増やし、生徒が英語でのインプットに慣れてから、英語でのアウトプットの機会を増やしていった。また、最初は教師からの英語での一方的な情報伝達から始めたが、少しずつ教師と生徒との英語でのインタラクションを増やしていった。さらに、教師と生徒のやりとりから、徐々に生徒同士でコミュニケーションが図れるような指導を工夫した。

今回の研究いちばんの成果は、生徒が授業に対して受け身でなくなり、自発的に取り組むようになったことである。また、「英語で説明されても分からない。」とあきらめるのではなく、「分からないからよく聞こう。」という前向きで意欲的な姿勢を見せる生徒が増えてきたことも実感している。さらに、これまで日本語であっても自己表現することに対して消極的であった生徒が、英語で意見を書いたり発表したりするようになったことは大きな変化である。教師も生徒も授業中に英語を使用する機会が増えたことで、生徒は「相手が英語で言うことを理解しよう」「相手に自分の思いを英語で伝えてみよう」という意識をもつようになってきた。これは英語で「コミュニケーションを図ろうという態度」が育まれたからではないかと考える。

今後は「正確に」英語を理解し、「正確に」表現することが課題である。情報を発信したり、受け取ったりすることには、積極的に取り組むようになってきたが、伝達する内容の「正確さ」はまだまだ十分であるとは言えない。そのためには、これまでの活動に加えて、文法的な知識や更なる語彙の習得が必要となる。英語でのコミュニケーション活動を通して、それらの知識を与えられるような指導を目指し、さらに研究を進めたい。